



令和4年度 学校評価

学校教育目標	
校訓 「創造・自律・誠実」 (1) 一人一人の生徒を尊重する教育の実践 (2) いじめや体罰のない安心・安全な学校生活の保障 (3) 主体的な学習態度の育成 (4) 個性を生かす進路指導の充実 (5) 情操豊かな徳性と自律の精神の養成 (6) 心身の鍛練と質実剛健の気風の育成 (7) 地域を愛し、地域に学び、地域に尽くす心の育成 (8) 創造の意欲に燃える新たな良き校風の樹立	

重点目標 (中長期的目標)	総合評価
自立的な規範意識を育み、確かな学力を養うとともに、豊かな心と生きる力を備えた生徒を育成する。	個々の進路希望に応じたエリア制は学校評価アンケートで生徒の9割以上が前向きに捉えている。これに加え、基礎学力定着のための少人数習熟度別授業や、探究的資質を育む授業により確かな学力の養成に努めてきた。また、匿名性を担保した授業評価アンケートの実施により、生徒の学習に臨む姿勢を振り返る機会と教師の授業改善への動機づけを行うことで両者がともに学び合う授業づくりを目指している。令和元年度に生徒会が自ら作成した「松高スマホルール」は授業中の生徒の自律的な姿勢の確立に寄与しており、こうした取組みを基本に据えて生徒の学力向上と「生きる力」の涵養に努めていきたい。 今年度もコロナ禍の中、生徒会・クラブ活動などを通じて地域と連携した企画に参加する機会が限られ残念であったが、今後の地域との連携や共同的な取組みの在り方を考えることができた年であった。同様に生徒は行事の変更、縮小もある中「安全に配慮し工夫して何ができるか」などを考えて取り組み、学校評価アンケートや学校評議員会の場で活動が高く評価された。 今後も保護者、地域の方々との共同的な関わりを大切に、生徒一人ひとりが自ら考え行動する機会や取組みを通して、身だしなみや挨拶、マナーなどの規範意識、基本的な生活習慣の更なる向上を図っていききたい。

重点目標 (今年度)	成果と課題	A	B	C	改善策向上策
①生徒が個人として尊重される、安心・安全で活力ある学校生活を保障する。	生徒は全体として落ち着いた雰囲気であり、学習、課外活動に前向きに取り組んでいる。本校として厳しく対処している暴力やいじめについては重大な事案は起きていないが、引き続き普段からのきめ細やかな指導を心がけていきたい。 昨年来、SNS上でのやりとりによるトラブルが発生しており、情報モラルやスマートホンの利用方法に加え、良好な人間関係づくりなどが課題と考え、未然防止に向けた研修や講演も実施した。教員が変化するネット環境やSNSの危険性などの情報を可能な範囲で生徒に提供し、SNSによる人間関係の問題を未然に防ぐ指導を行うと共に、生徒が定めた「松高スマホルール3ヶ条」を通じて生徒間でも主体的に考えられるようにしていきたい。 生徒の安全面において、外部との関わりが心配される事案や問題はなかったが、教室内での紛失物等が報告されたこともあり、今後も校内巡視等を継続し生徒が安心して学校生活を送られるよう生徒、職員で取り組んで行きたい。		○		引き続き生徒が安全で活力ある学校生活を送るためにも、生徒会活動が活発に行われることが重要である。そのために全校生徒が生徒会活動に興味を持ち地域の方々に発信し、連携を取りながら様々な活動に取り組むことができる環境を作っていく必要がある。 クラブ活動では各クラブが目的をもって活動しているが、運動部、文化部ともにクラブ員の減少傾向に続いており、改善策を含め緊急検討すべき課題である。 外部との関係で問題が生じることは減少したが、SNS等の普及により生徒たちの交友関係は拡大しており、そうした中で様々な問題を未然に防ぐためにも、自他ともに尊重できる人権意識の高まりや情報リテラシーの向上に学校全体で取り組む必要がある。 学校における生徒の安全面・健康面の管理と啓発は必要不可欠であり、職員が生徒・保護者、地域の方々の声に真摯に耳を傾け対応していきたい。
②基礎学力の定着と、探究的学力の伸長を図る授業づくりをすすめる。	入学時より基礎学力の定着と向上を企図し、英語・数学は習熟度別授業によりきめ細やかな指導を行っている。基礎学力から応用力、発展的な学力への向上に向けて「基礎力診断テスト」の結果を考察し、職員研修会や職員間の研究授業なども実施した。 電子黒板やタブレットなどICT機器の整備により、各学年・教科により視聴覚教材等を活用した各単元の理解、グループでの調べ学習からプレゼンテーションへの発展など、課題解決能力やコミュニケーション能力を育成する対話的な探究型授業に取り組んでおり、今後も更に進めていきたい。		○		「基礎力診断テスト」の結果を細かく分析し、生徒が補うべき課題を明確にした上で基礎的な学力と読解力を向上させる取り組みを行ってきたい。また、習熟度別・エリア別授業を生かして、生徒の個々の進路実現のための基礎学力向上を図るとともに、探究的な学力と姿勢を育み、社会的自立につながる教育活動に取り組んで行きたい。さらに、BYODを活用した調べ学習等を含め情報通信技術を活用したICT教育の充実を図ってきたい。
③生徒の個性と能力を伸ばさせるキャリア教育と進路指導を組織的に実践する。	新型コロナウイルス感染対策を十分取り進め指導室担当者や各学年の担当者が中心となり堅実な指導、支援体制をつくり上げ各学年の目標をほぼ達成できた。 本年は産業視察、地域企業説明会等の参加型行事に参加することができ(コロナ禍により一部中止)、各団体等の協力により「キャリア」学習の機会を確保できた。インターンシップが夏季休業中に実施することができたことは、生徒にとり有益な就業体験であった。 来年度以降も、コロナ禍によるこれまでにない対応・展開が求められるものと予想されるが、関係する諸機関・団体、各種上級学校にこれまで以上の協力を仰ぎ、連携強化を図り、生徒全員の進路希望実現を目指していきたい。		○		新型コロナ感染対策に留意しつつ、他校の進路指導担当者との情報交換など、関係諸機関・諸団体・上級学校との連携をこれまで以上に密にしていきたい。特に参加型の産業教育行事は、生徒たちの職業選択・企業選択に有益であるので、可能な限り参加させていきたい。 今後の進路指導はコロナ禍など過去に経験のない状況を鑑み、臨機応変かつ迅速な展開を心がけなくてはならないと考える。生徒たちが採用試験・入学試験を突破するのに何が必要かを状況の変化に合わせて考察し、各学年と進路指導室の連携により実効性のある指導を進めていきたい。
④生徒の主体的な活動を支え、自己肯定感を高め、生きる力を育む。	生徒会活動を日常的な学校生活の中で着実に展開することができ、継続的な活動が学校全体の活力や穏やかで自由な雰囲気づくりにつながり生徒の主体性・協調性・社会性を育む礎ともなっている。生徒が施行した「松高スマホルール3ヶ条」を毎月、職員とともに振り返ることでマナーを定着させると共に、安心・安全な学校を自分たちで作る意識を高めていきたい。そのためにも全校ディスカッションなどを通じて校内の課題を生徒自身が意識し取り組むことができるようにしていきたい。		○		生徒の主体性を育むには、自らが学校・社会の一員であるという自覚と認識が大切であり、生徒会活動や学校行事を通して、スマートフォンの利用方法のみならず様々な問題意識をもって学校生活を見つめ直すよう支援していく。また、地域との関わりを密にし地域の声を聞く機会を設けることで、公共心と自助、共助の気持ちを培い、社会の一員としての主体性を高める支援を展開する。
⑤地域に開かれた学校づくりを進め、地域社会に貢献できる生徒を育成する。	昨年同様コロナ禍で制約がある中ではあるが、地域の方々との交流活動等を通じ生徒の社会参加の意識や自治力の向上が図られつつある。生徒会やクラブ等を中心としたボランティア活動においては、地域の要望を踏まえ新たな取り組みも模索しているところである。今後もエリア制の学習などにおいて、地域の教育資源を活かした探究的な活動に取り組む中で開かれた学校づくりを推進していきたい。		○		学校案内や学校活動情報誌『フルーツバスケット』及びホームページ等を工夫し、学校の様子を広く地域、校外に発信し、地域からの要望等も聞きながら、開かれた学校づくりを継続していく。さらに、生徒自身の主体的な活動を促すとともに、その活動場所である地域、自治体や企業等との連携を深め、本校の目指すべき方向性を検討する窓口と組織を明確にしていく必要があると考える。